

あし風通信

平成 19 年 11 月 1 日発行
02 号

応援します、生涯学習 - ふえる知識と仲間の輪

映画「喜びも悲しみも幾年月」・石狩ロケのエピソードなど 講演会「巨匠・木下恵介の世界」に市民魅了



講座抄



石狩市郷土研究会（村山耀一会長）主催の講演会「巨匠・木下恵介の世界」が9月23日、石狩市民図書館で開かれ、映画「喜びも悲しみも幾年月」が制作されて50年の節目に当たる今年、参加者は木下映画の魅力や石狩ロケの数々のエピソードに興味深く聞き入っていました。

講演のなかで、松竹映画プロデューサーだった講師の榎部一視さん（札幌市手稲区在住）は、「もともと白一色だった石狩灯台が、雪の白さを際立たせるために監督の希望で塗り替えられた。邦画のカラー化が始まって間もない頃の粋な計らいだった。“赤白灯台”はその後、積雪期に識別しやすいと評判になり、次々と採用されることになった」と。また、道内にある多くの灯台の中からどうして石狩灯台が選ばれたかについて榎部さんは、「多くの灯台は海に面して断がい絶壁にあるが、石狩の場合は砂丘に建つ全国でも珍しい灯台だから」と述べ、「長女が生まれそうになり、雪が激しく降りしき中、産婆さんを乗せた馬そりが雪原を走るシーンはとりわけ美しい。そんな風景を撮るために平坦な場所にある灯台が必要だった」と話す。そして「映画の最初の山場は、札幌の病院で長男の出産を終えた妻が二人の子どもとともに帰ってくる場面。石狩の雪原を走る馬そりは鈴も軽やかで、冬には珍しく石狩湾の空は晴れている。しかし、引き返しの馬そりは急きょ同僚の重病の妻を運ぶことになり、その途中で彼女は息を引き取る。重苦しい鈴の音と鉛色の空に地吹雪が舞う。石狩ロケでの木下監督の絶妙な演出である」と、榎部さんは語る。

最後に、聖書の“地の塩”のことばを引用し「地味ではあるが灯台守は、人里から離れた地で海の安全を守るための“塩”である。木下恵介はこのことを映画を通じて伝えたかった。また、映画は恋愛賛歌であり結婚賛歌、家族賛歌でもある。機会があれば夫婦で、子や孫と一緒に観てほしい映画である」と、榎部さんは参加者にメッセージを贈り結びとしました。

参加した花川南の安藤良子さんは「お話と映画の名場面を通して、灯台守夫婦の人生の喜びや悲しみを、私の人生と重ね合わせて考えさせられた」と話していました。講演会には、昭和33年3月の石狩ロケで主人公の佐多啓二や高峰秀子とスタッフが宿泊した吉田旅館（現在は無い）の経営者だった吉田サチさんも出席し、高峰秀子の思い出などを語っていました。

また、映画「喜びも悲しみも幾年月」の制作50周年を記念した上映会が9月30日花川北コミセンで行われ、200人を越える市民が参加し昔懐かしい映画を鑑賞しました。

コラム ことばQ&A

Q：「いしかり学のススめ」の『いしかり学』って、どのような学問ですか。

A：近年、「ほっかいどう学」や「函館学」、「新潟ふるさと学」など地域の名前を冠した“地域学”が注目されています。火付け役は「東北学」の提唱者で、民俗学者の赤坂憲雄さん。地域独自の歴史や文化、産業、自然などを掘り起こし、地域の魅力や可能性を再発見するのがねらいです。地域学の研究や啓発は、都道府県や市町村などの行政や大学、NPOや市民団体などきわめて多様です。石狩では特に学問としての研究活動は見られませんが、市民ボランティアの会と市教育委員会の協働で生涯学習講座「いしかり学のススめ」を企画・運営しています。

学びのスタンプデータ (10月31日現在)

- 登録者～134人
- 協力団体～51団体
- 登録講座(6月～11月)～148講座



ロゴ制作者・丸山英里子さん

学びのスタンプ 協力団体紹介(2)

いしかりまちづくり協議会

いしかりまちづくり協議会は、石狩市のまちづくりに“何かをしたい”というメンバーが集まり、平成11年7月に発足しました。

月例会は第2木曜日午後7時より公民館で開催しています。活動は、花川北にある「紅葉山公園」を桜の名所にし、身近なところでお花見をしたいという声を実現しようと、市民にも呼びかけ桜の苗木を植樹しました。その「桜の木」も成長し、花を付け始めています。

他の活動としては、石狩市内のお年寄りによる「石狩の古老の話を聞く会」を隔月開催しています。12月に開催される第15回目は「石狩湾新港」をテーマに取り上げる予定です。また、石狩のまちを良くしようと、市に対し市民の意見や要望なども提出しています。市民の皆さん一緒に活動しませんか。

*講座内容など、詳しくは三島さんまでお問合せください。(TEL74-2039)

石狩の一冊

◆土居良一「こわれもの」講談社

文芸雑誌「群像」2003年4月号の巻頭を飾り、新聞雑誌で絶賛され、2004年に単行本として刊行された。作者は、1980年「島影」で芥川賞候補となった石狩の作家・土居良一である。この年、ともに受賞を逃がした候補作家には田中康夫や高樹のぶ子などがいる。

小説の舞台は石狩、札幌、小樽。子供をつれて家を出たうつ病の妻に、戸惑い葛藤する中年男の話で陰鬱なストーリーだが、客観的に自分を見つめる主人公のせいか、どろどろせず、さわやかな読後感すら感じる不思議な小説である。悩みながら、肉体労働で生活の糧を得て懸命に生きる主人公も、病気の妻も、お互いにそして周りはずれていくところがユーモラスに描かれているからかもしれない。夫婦、家族の絆を考えさせられる。

主人公が書類を出しに行く市役所は、どうみても石狩市役所だが、教育委員会は3階とされている。小説にはこのような細かな虚構があり、それを知る楽しみを味わうのも地元の作品ならではの楽しみ。

石狩市民図書館副館長 丹羽秀人

会員の声

講座で得た知識を生きがいに...

スタンプ会員になって6ヶ月。「あい風通信」の中から気に入った講座に参加し、楽しんでいます。私は、昨年現役を引退したばかりで、健康でまだまだ馬力があります。これからも様々な講座に参加し、出来れば受講し得られた知識が生きがいとなり、地域のお役に立つ様な講座にめぐり会えればと思っています。これからも市民の希望に応えるような新しい講座を加えていただき、さらに充実した「学びのスタンプ」になるように期待しております。

花川北・今中健男さん

掲示板

会員の皆様、スタンプはいくつ貯まりましたか。30スタンプで、来年3月に市長より「ブロンズ修了証」が贈られますので、2月中旬に運営委員会までお知らせください。運営委員会より

編集後記

会員の皆様、今年の夏は幸せを運ぶ「あい風」を体感されたでしょうか。「あい風通信」第2号をお届けします。通信の編集はスタンプ制度運営委員が交代で担当しています。「講座抄」では、映画「喜びも悲しみも幾年月」の講演会取材しました。制作担当者でなければ知り得ない話には、封切りから50年の重みが込められていました。私たちも50年は無理でも、「あい風通信」50号に創刊当時のコメントが掲載できることを夢見しています。(S.N)

発行

学びのスタンプ制度運営委員会

お問合せ

石狩市教育委員会 社会教育課

石狩市花川北6条1丁目30-2
TEL: 0133-72-3173 FAX: 0133-75-2276
E-mail: manabee@city.ishikari.hokkaido.jp